

# 羽毛の品質って 産地で決まる?

昨今、中国産玉ねぎの国産表示、味噌や冷凍食品の不正転売、偽装オリーブオイルなどの食品偽装、車の燃費改ざん、データ取得の試験方法の不正などの燃費偽装、一級建築士による構造計算書の偽装、免震ゴムデータ偽装などの耐震偽装、地盤改良工事でも施工不良とデータ偽装、有機肥料成分の成分表示偽装など次から次へと偽装問題が世間を賑わせています。羽毛についても今年の5月に「産地偽装か?」の表題で新聞やテレビで報道されました。

結論から申しますと、羽毛原料の品質が決まるのは一定の条件を満たしているときに限られます。産地でもいろんな条件がありますので産地だけで品質は決まりません。一定の条件とは、産地の飼育環境が寒い地域であること、飼育期間が長いこと、適切な採取方法であることなどが挙げられますが、あくまでも原料の段階の品質です。同じ国でも国土が広いと寒いところから暖かい地域まで様々です。同じ種類の水鳥でも飼育期間の長い親鳥もいれば、極端に短い水鳥もあります。採取方法も、スローターハウスで機械によって採取される羽毛もあれば、合法的に生きた水鳥から丁寧にパッキングされる羽毛もあります。この一定の条件を満たす羽毛は水鳥が育った国の全産出量の一部という事になりますので、一つの産地の羽毛にも高品質の物から普通の物までの幅があるわけです。このことから産地名だ



羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。羽毛ふとのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。今回は、羽毛の産地と品質の関係について…。

けで品質の良し悪しを決めることはできません。

羽毛産出国で一定条件を満たしている国では高品質の羽毛は存在します。世界で一番の羽毛原料を産出国しているのは中国です。水鳥の飼育数も世界一です。飼育数が一番であれば親鳥の飼育数も当然世界一となります。中国の小さな農家で育てられた水鳥は殆どが人間の手によって採取されます。中国は国土が広く北の方や奥地は非常に気温が低いため良質の羽毛を産出されるための一定の条件は揃っています。

今回の偽装疑惑では、あたかも中国産の羽毛がフランス産であるかのように偽装された事になっております。只、フランス産の羽毛の品質を一般消費者が理解しているとは到底思えません。何處の羽毛を偽装したのではなく、フランスという高級品的なイメージ戦略によるところが大きく、むしろ偽表示なのかもしれません。今回は中国産が悪者にされました。中国は、飼育環境も親鳥の飼育も採取方法もすべての条件を満たしています。中国というイメージだけで品質を決めつけることは間違った判断です。中国にもいいものはたくさんあります。偏見を持たないことが大切なような気がしますし、偏見を持たずに選べることができる表示を作ることが急務です。

最後に、羽毛ふとんは中身の羽毛もさることながら、生地の品質、極められた内部構造などもふとん選びの重要な要素です。



日本羽製品協同組合

[編集発行] 日本羽製品協同組合

[事務局] 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

## 第22回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催。



平成28年9月6日、台中・林酒店にて、第22回日本・中国・台湾三方羽毛会議を開催致しました。

日本から日本羽製品協同組合加盟社を中心 に37名、中国から中国羽絨工業協会関係者77名、台湾から台湾区羽毛輸出業同業協会関係者75名、合計189名が参加し、情報交換や市場報告が行われました。

6日の会議では、日本・中国・台湾の各羽毛組合の理事長より挨拶の後、各国の羽毛市場報告があり、日羽協からは、産地偽装疑惑払拭の為、9

月1日より産地対策委員会を立ち上げ、今後試買テスト事業において、品質に加えて産地も調査する事を報告し、中国・台湾の羽毛組合及び所属企業に対し、産地管理の徹底を要請し、また洗浄・精毛の加工記録を整備いただく事を、改めて要請いたしました。

会議期間中は中国・台湾の主要羽毛原料メーカーが参加されたこともあり、有意義な意見交換が行われました。

# 理想の寝方、ご存じですか

## ■あなたが寝る時に1番多い姿勢はどれですか？

というアンケートによると(リサーチパネル調べ、17万8892人が対象)

このような結果となり

仰向けに寝る方が一番多いようです。

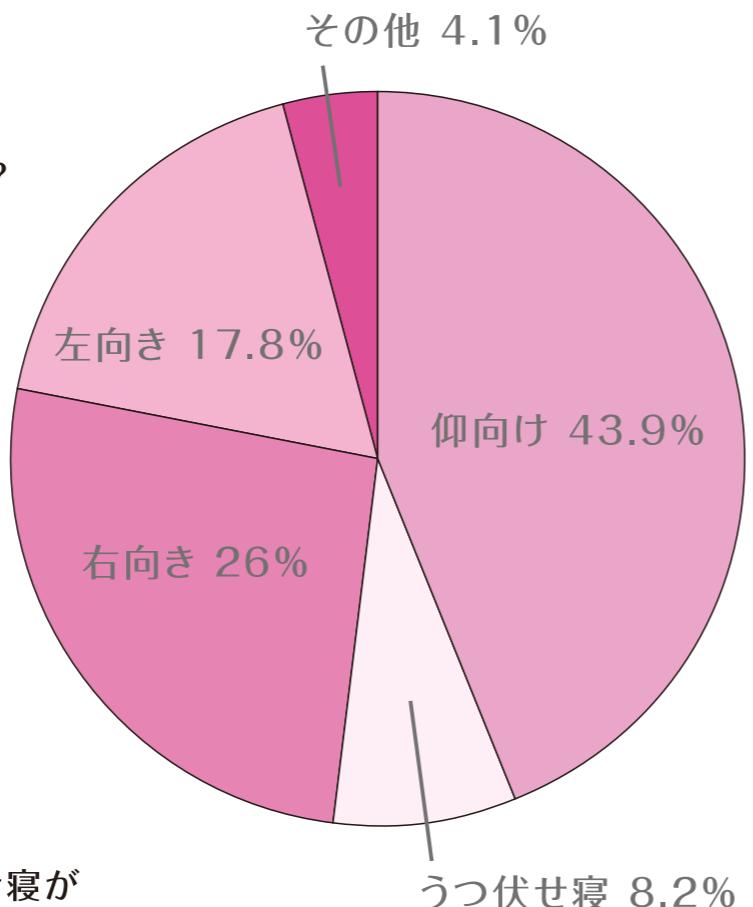
でもちょっと待ってください。

はたしてその寝方で大丈夫でしょうか？

仰向け寝の方のデメリットとしては

1.いびきの原因

2.睡眠時無呼吸症候群の危険性  
の指摘があります。



## ■では、理想的な寝方は？

### 「右側を下にして足を軽く曲げ 身体がS字になる横向き寝」

母親の胎内にいるような姿勢の横向き寝が最も良いとも言われています。

この姿勢は、心臓が圧迫されずゆっくりと動き

“消化吸収に良く” “呼吸が整い” “同時に全身がリラックス”できるからだそうです。

ただしひじ枕や不自然に腕や脚を曲げたりしたまま寝続けると

血流が悪くなりしづれの原因にもなります。自然に寝返りが打ちやすい寝具選び、極端な負担がかからないように注意することも大切です。

今までの寝方に固執せず「右向き寝」「左向き寝」など

いろいろと試してみると、今まで悩んでいた

いびきなどが、解消できるかもしれません。



# 羽毛ふとんのお手入れ

## ●羽毛ふとんを干す

近頃はふとんを干す頻度が少なくなっています。定期的に干さないと湿気がたまってしまい汗や汚れによりかさ高も悪くなり、羽毛ふとんの寿命を減らすことになります。

羽毛ふとんを干すことは大切なことですが、日差しの強い中長時間干すと側生地が傷んでしまうので、干しすぎには注意しましょう。夏場は片面30分、冬場は片面一時間ぐらいが目安です。できれば、空気の乾いた日を選んで干しましょう。雨の後の晴れ間は、かえって空気中の水蒸気を吸収してしまいます。

干す場所や季節により、花粉や車の排気ガスなどが羽毛ふとんに付着してしまうことがあります。そのためふとんカバーをつけたまま干すことをお勧めします。干し終わってからカバーは洗いましょう。

日光による殺菌効果もあるのでたまには短時間直接干すことも良いでしょう。ふとんを叩いた時に出る埃は多くが叩いた時に壊れる繊維です。羽毛ふとんを叩くと中の羽毛も側生地も壊れていき寿命を短くします。埃は掃除機などで吸い取ることをおすすめします。

## ●羽毛ふとんを洗う

羽毛ふとんを定期的に干しても、カバーをこまめに洗っても、汗や皮脂などの汚れは少しずつしみ込んでいきます。

汗かきの方なら3年、普通の方なら5年を目安に羽毛ふとんのクリーニングをお勧めします。羽毛ふとんのクリーニングは水洗いが一番です、しかし普通に洗ってしまうと生地が縮んだり傷んだり、中の羽毛が傷んだりする危険がありますので、水洗い専門のクリーニング業者に依頼しましょう。

## ●羽毛ふとんをリフォームする

10年以上も使用しているとふんわり感も少なくなり中の羽毛もへたってきます。そんな時は羽毛ふとんのリフォームをお勧めします。

中材の羽毛をきれいに洗浄し、ちぎれたファイバーや埃を取り除き、必要に応じ新しい羽毛を足し、新しい側生地に入れ直します。きれいになりふんわりとかさも戻ります。

羽毛ふとんのリフォームは、日羽協のリフォーム認定工場をご利用ください。



リフォーム認定工場は  
<http://nichiukyo.org> 組合概要→リフォーム認定工場 でご確認いただけます。

# 羽毛ふとんの判断基準

羽毛ふとんに使われる羽毛は鴨やガチョウの水鳥のもの。主に、ダウンとフェザーが使用され、フェザーよりダウンが、また、ダウンの中でもダウンボールがより大きなものが保温性が高く、高品質な羽毛ふとんに使用されています。また、羽毛ふとんの性能を表す指標の一つがダウンパワー\*であり、その数値が品質の目安とされています。

## 1) ダウンとフェザーの比率

羽毛ふとんの価格を決めているポイントとして、使われている羽毛の種類が有ります。ダウン、フェザーの価格差から、同品質のダウンを使用している場合、ダウンの比率が大きいほど一般的には高性能の羽毛ふとんとなります。

## 2) ダック(アヒル)とグース(ガチョウ)

羽毛ふとんにおいてはダックよりもグースの方が高品質であると言われていますが、「アイダー」のように、極めて高価格なダックも存在します。水鳥の種類よりも、ダウンパワーの方が品質を大きく左右します。これは、ダウンパワーが高いと保温性も高くなるためです。

## 3) ゴールドラベル

日羽協の発行するゴールドラベルは、公的認定検査機関にて検査したダウンパワーを含む、ゴールドラベル基準に合格した製品に発行されるラベルです。羽毛ふとんをご購入の際は、ゴールドラベルをご参考にお選びください。

\* ダウンパワー (dp)

羽毛のふくらみを数値化したもので、羽毛にふとんの中と同程度の圧力を掛けた時の、羽毛1gあたりの体積 (cm<sup>3</sup>/g)



# 「産地対策委員会」を立ち上げました

日本羽毛製品協同組合では、組合加盟各社の製造する羽毛ふとんの産地表示を、より適切なものとするため、9月1日より「産地対策委員会」を立ち上げました。

この委員会では外部の有識者を委員長に迎え、上部団体並びに所轄官庁に加え、消費者団体や小売業界団体からも委員を迎える、組合員各社に対して羽毛製品の適切な産地表示の指導を行います。

## 産地対策委員会概要

|         |                                                                                                                                                                                                                          |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■名称     | 産地対策委員会                                                                                                                                                                                                                  |
| ■設立の目的  | ①産地偽装疑惑を払拭し、消費者の羽毛製品に対する信用・信頼を回復させる為<br>②原産地表示の基準作成及び原産地トレーサビリティの文書確認システムの確立の為<br>③羽毛原産地の科学的分析技術方法の精査の為                                                                                                                  |
| ■発足日    | 平成28年9月1日                                                                                                                                                                                                                |
| ■構成メンバー | 委員長 井川正治 (日本体育大学教授)<br>委員 中村富夫 ((一社)日本寝具寝装品協会専務理事)<br>委員 河田敏勝 (日羽協理事)<br>委員 佃光明 (日羽協普及啓発・需要活性化委員)<br>委員 吉兼令晴 (日羽協技術委員)<br>委員 河田昌浩 (日羽協普及啓発・需要活性化委員)<br>委員 遠藤忍 (日羽協技術アドバイザー)<br>オブザーバー 経済産業省生活製品課担当者<br>事務局 山本正雄 (日羽協事務局) |
| ■監査機関   | (株)Control Union Japan 東京都港区西新橋3-19-14 電話 03-6659-4750<br>代表取締役／山口真奈美 担当者／磯部久美                                                                                                                                           |

- 補足説明
- 当組合は(株)Control Union Japanと業務委託契約を締結し、原産地証明書他関連書類の監査を同社に委託する。
  - 組合員企業は当組合の要請に基づき、原産地証明書他関連書類を直接(株)Control Union Japanに送付し、監査後、直接同社より返却を受けるものとする。
  - 監査費用は日羽協負担とする。



## 日本の寝具の歴史 ①

### 寝具としてのタタミの発生

大陸から伝わった水田耕作が日本の全土に伝播して、日本人の生活を大きく変化させたのは、今から二千年ほど昔といわれています。米を作り貯えることによって生活が安定すると、人口も増え、また社会生活も複雑化しました。特に富や権力をもった支配階層が次第に大きな集団を支配するようになり、集団の上に“クニ”、“クニ”的上により大きな“クニ”が成立するようになりました。そして西暦四世紀頃になると大きな支配者があらわれ大規模な墳墓(古墳)を営むようになりました。水田耕作のはじまった頃から、古墳が生まれるまでを弥生時代、古墳ができるから以後七世紀頃までを古墳時代とよんでいますが、古墳時代には既に鉄製の武器や武具で身を固めた軍隊ができ、5世紀には大規模な海外遠征まで行うようになりました。

このような急速な社会生活の発達は、住宅や生活文化にもあらわれたわけですが、弥生時代には竪穴式住居の他に、穀物を収納する高床式の倉が作られ、一部には高床の住居も営まれるようになりました。古墳時代になるとさらに平家や高床式住居のほか、二階家もあらわれ建築技術の進歩がうかがわれます。

さて、この頃の寝具とはいってどうのようも

のだったのでしょうか。建物の外観や大きさは、当時の絵やハニワ(家型埴輪の類)住居趾の発掘などにより実現できますが、寝具については手がかりがありません。住居趾の中には、床の一部がベッド状に高く作られ、その中央部分に炉があり、炉のへりが周囲の平面よりさらに一段高いところから、炉の周囲に何らかの敷物がしつらえてあったことを物語るものも発見されています。

しかし、文献史料をたぐってみると上古の寝具を語る部分がないわけではありません。たとえば『古事記』(中巻)には神武天皇と皇后イスケヨリヒメのロマンスを述べた部分に

イ いスケヨリヒメの家、狭井河さいのへにありき、天皇、そもとのイ いスケヨリヒメの許もとにいでまして、一宿御寝ひとよみねしましき、後にそのイ いスケヨリヒメ、宮の内にまいりしき、天皇御歌よみしたまひけらく、

葦原あしはらのしけしき小屋にすがタタミ  
いやさや敷きてわが二人寝し  
とよみたまひき。

とあります。

大和の狭井河のほとりにあったイスケヨリヒメの住居で、すがタタミをさやさやと敷き二人で寝たことがあったよなあ…という回想のロマンを歌にしたものですが、これは明らかに“タタミを敷いて寝る”という就寝の風俗を描写したものです。もちろんタタミとはいっても今日の畳と同じものではなく、ムシロを二枚表裏に重ねざしにとじ合わせたものと解されます。ですから今日の私たちが敷布団を敷くように、さやさやと敷いて寝たという表現も納得できるわけです。

タタミが寝具として使われる例は文献の中にはほかにもたくさん見出されますが、そうした場面を描いたもので一番古い絵巻物は、藤原時代の『源氏物語絵巻』です。

といつても上古の話題に比較すると時代はずいぶん下りますが、逆にいうと古代の末期になってもタタミに寝る風俗が続いていることになります。また畳の実物(ほんの一部分)の最古の例は、正倉院にある聖武天皇の御寝具で、ムシロ六枚をいむしろとじ合わせ、一番上には蘭筵を、裏には麻布を取り付け、これに錦の縁をつけたとても立派なものだったようです。

タタミは中世に入ってから発展して今日の畳のようになりましたが、これがもともと寝具であったなによりの証拠はその大きさで、これは今でも人が寝るのに具合のいい幅と長さに出来ていることです。

### 羽毛製品アドバイザー派遣を行っております。

#### 1. 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウェア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

#### 2. 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は無料。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、約120分程度です。

#### 3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。電話 03-5649-2285